

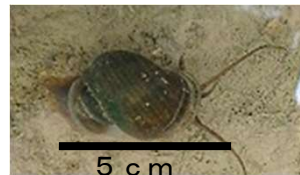
水稲田植え前後の ジャンボタニシ被害の拡大防止策

- ・2021年5月12日、町内水路でジャンボタニシの卵塊が発見され、今年も貝が動き出したことが分かりました。
何も対策しないと、田植え直後の苗が食害されます。
- ・前年に食害のあった水田、近隣で貝が被害のあった水田では、下記の対策を実施して、被害を防止しましょう！



・食害で苗が消えたほ場

- ジャンボタニシ(学名: スクミリンゴガイ)
- ・5cm以上の大きさになることも多い。
 - ・水中でよく動き、長い触角を出すことが
在来タニシとの相違点
 - ・田植直後の柔らかい苗を食害します。



- ・成貝の写真
- * 寄生虫がいるので
素手で触らない！



- ・卵塊の写真
- * 神経毒があるので
素手で触らない！

必要な対策(◎: 必須、○努力目標)

1 田植え前～中

◎(1) 水口ネット設置(水路から貝を入れない)

- ・水田の取水口に目合い9mm程度までの金網や網袋を設置する。
(ネットの設置例)



BBQ網をはめる



切り売りの金網を固定



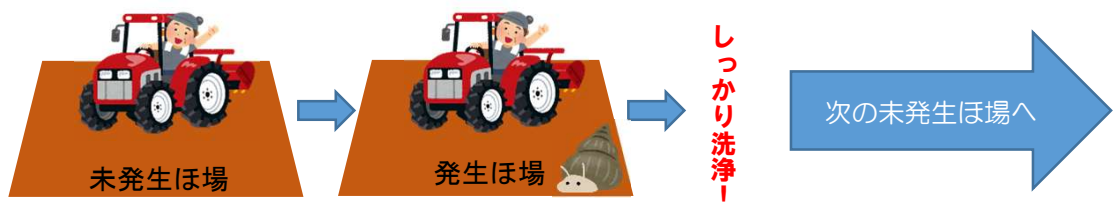
切り売りの金網を固定



大根ネットを結ぶ

◎(2) 農機洗浄(発生ほ場→未発生ほ場に移る際)

- ・発生ほ場で作業したトラクター・田植機等のタイヤやロータリーに貝を含む泥がつき、それが未発生ほ場に持ち込まれることで被害拡大します。
→未発生ほ場に貝を持ち込まないよう、農機洗浄を徹底しましょう。



○(3) 入水4日程度後の丁寧な代掻き

- ・水温15℃以上・3～4日の湛水条件で貝は休眠から覚め活動する。
- ・活動を始めた貝が土壌表面に出てから、丁寧にゆっくり代掻きをして物理的に貝を砕く。



裏面へ続く

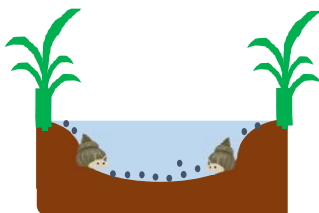
2 田植え後

◎(1)浅水管理(食害防止に効果的！ 田植後3週間で勝負！)

- ・田植え後3週間(水稻5葉期ごろ)までは水深4cm以下の浅水管理をしましょう。
- ・ジャンボタニシは水深が深いところでよく動くので、水深4cmを超えると食害が出やすいです(食害されると感じたら落水！)
- ほ場均平が重要！レーザーレベラー施工、浅水代掻きで、均平化に努めましょう
- * 急な大雨で深水になると大きく食害されるので、落水しやすいよう落水口を管理しておきましょう。

◎(2)農薬散布(北栄町内の水田のみ)

- ・効果が現地確認されている薬剤は「スクミノン」「ジャンボタニシくん」など
- ・散布時期:移植直後(食害が起きる前)
貝密度が高い場合など必要に応じて追加散布する(使用回数2回まで)
- ・湛水状態(水深3cm程度)で散布し、散布後7日間は排水はしない
- ・使用量は登録範囲で行う(例:スクミノン:10aあたり1~4kgを散布、収穫60日前まで)
- ・用水路には絶対に散布しない
- ・ジャンボタニシは水口周辺や深水になる箇所へ集まる
→集まっている場所に集中的に散布すると効果的！



○3 トラップによる捕獲・卵塊の払落し

- ・発生直後のほ場など貝密度が低いほ場では、来年以降に越冬する数を増やさないために、可能な限りトラップ捕獲と卵塊払落しを行いましょう
- * 常発地域・貝密度が高いほ場では、浅水管理と農薬散布に注力してください。

(1)トラップ捕獲

- ・深水になる水口や畔際などに、浅水管理できないところに仕掛ける
- ・餌は米ぬか、ぬか床、茹でタケノコ、野菜くずなど
(トラップの例)



苗箱トラップ



ペットボトルトラップ



段ボールトラップ

(2)卵塊の払落し



ピンク色の卵塊
・水没させると死ぬ
→水田・水路の水中への払落しが効果あり



白色の卵塊
・孵化直前の状態
・水没させると孵化を促す
→踏みつぶしが効果あり

問い合わせ先

東伯農業改良普及所
JA鳥取中央琴浦営農センター
北栄町産業振興課

TEL 0858-52-2125

TEL 0858-52-3222

TEL 0858-37-3152